essais こころみ　2022年9月

2022年9月1日（木）　雨

台風が近づいていて、秋雨前線がさがってきて、大阪も今日は一日雨の予報。今朝はビルの管理の人たちが立て続けに火災報知器などの設備点検にやってきた。いま気づいたが、今日は関東大震災の日、防災

ー　ライフスタイル　ー

聞いてみないとわからないものだ…、そう感じるが何度もあります。仕事ではもちろん、プライベートでも、〈話せる〉人と思ってもらえるのでしょう、普段はあまり人の話さないだろう過去のことや自身の有り様などを話されます。聞けばきくほど、感嘆します。最近では自分の過去が大したことでなかったんだと思えるほどです。

「自分のやりたいことなんて考えてこなかった」。話を聞いた、特に女性たちに、これから何をやりたいかを尋ねてみると、こんな応えが返ってくることがあります。妻、嫁、母の務めにおわれ、自分のことなんて考えたことがない。初めてこの返事を聞いた時には本当にびっくりしました。

最近話題の80代女性たちのライフスタイル、富裕層ではないけど、おだやかにイキイキと自分を生きている。動画や本でそれを発信して、皆が関心をしめす。人生の晩年にまさかこういう展開になろうとは、ご当人たちも驚いているでしょうが、そんな世の中をオモシロがっていそうで

スタイル・流儀というのは、まずはそこに何かしら哲学がある、要る。その哲学の実践がスタイル・流儀。ライフスタイルは、生きていく上での自分の基本的な考えやポリシーの実践ということになりますが、それができていると実感した時、たぶん、シンプルなしあわせ感というものがわいてくるのではないでしょうか。

人生の後半にやりたいことが特になくてもいい。でも生きていく上でのスタイルはそなわっている、これが、『終わり良ければ総て良し』につながっていくような…。

2022年9月1日（月）　自作の絵本のプレゼント

仕事を通じて、多様は人、世界にふれられるのは、仕事冥利につきます。「フェルデンクライス」（身体の整えメソッド）を知ったのは「プロ講師になろう塾」の2007年第1期の受講者の方からでした。

「プロ講師になろう塾」は独自な問題意識をもって、チャレンジしている人が多く、また、だいたいは〈ソリスト〉として活動していくような仕事・業のみなさんが多い。

先日元受講者のお一人から絵本が完成したので、プレゼントしたいとメールがありました。書店販売されるものなので恐縮しましたが、お言葉に甘えて、「ぜひ！」と返信して今朝届きました。文は詩的で分量が少ないので、できれば〈話す〉essaisに音声にして載せようかと思います。

2022年9月5日（月） 晴れ

昨日に続き晴天の朝。明日には台風の影響で雨の予報。気温はまだ高いが朝晩は少しすごしやすくなった。こういう時に油断して風邪をひきやすい、夏の疲れも出る、気をつけよう。

－ 場面の展開の読み －

今日のessaisで話した「想像力」のことを少し考えてみたいと思います。想像力というほどでもない、ちょっと先の「場面の展開」の〈読み〉という程度のことです。

これまでたくさんの人の助言にあたってきましたが、時々、「そうなると、こうなるでしょう、だから、こうすると、先方はこうできて、自分にはこうなるでしょう…」と場面展開を話すことがありました。

ちょっと考えればわかりそうなことなのに、なぜ考えられないんだろうと、頭の隅で思いながら、時には、語調も強く話すこともあります。3日の拠点ゼミがそうでした。

3日の帰り道、過去の例も思い出しながら、ひょっとすると、その〈読み〉のできる人は少数派？ これまでは大多数はそうできて、できない人の方が少ないと捉えていましたが、逆なのでしょうか…。

会社員時代、ある中小企業に勤めていた時にこんなことがありました。営業部が取り込み詐欺にあった。でも未遂におわり、商品が戻ってきて、被害はなし。展開はこうです。

詐欺にあったようだと営業部長が社長に報告したら、オーナーでワンマン経営者の社長は先方の会社へ電話。側でそのやりとりを聞いていましたが、先方はノラリクラリの様。

埒があかないとみた社長、冷静かつ凄みのある声で、このままでは絶対に済ませない旨をきっぱり言って電話を切ったのです。なかなかカッコよかった。

２日後だったか、宅配会社が「届け物です」と来た。営業部長がどこからかと尋ねると、取り込み詐欺の会社。それを聞いた営業部長、なぜそうなったか、受け取れない、受取拒否の一声。

えっ？ とっさに「商品じゃないですか」とわたし。たまたま居合わせた社長も、皆が顔見合わせ、ちょっと「間」があり、ハッと気づいて、慌てて宅配業者を呼びとめ、送られたきたものを確認、やはり商品でした。

この流れ、どう思います？ 社長のあのやりとりと締めの言葉を聞いたら、先方は「これはヤバい」と思うはずで、商品を戻してくるのは、ある程度読めないでしょうか。

もしこう読めるのがそう多くないとすれば、わたしの認識はあらためてないといけないし、まぁまぁ、読めますよ、ということであれば、そうですよね、と言いことになり、さて、どうなのか、しばらく身近な人たちに確認してみようと思う昨日今日です。

2022年9月8日（木）白露 曇→雨

今日は「白露」、さすがに朝晩は涼しくなってきた。朝壱番はまだ虫がよく鳴いている。人々の装いも秋色になってきたが、今朝、ローズ色のウール？の半袖セーターを着ている女性がいた。日中は蒸し暑い予報

－ 場面の展開の読み〈続〉 －

５日に続けて実例をあげておこうと思います。ちょっと先の展開を読む、そういうことを人はどの程度しているのか、いないのか。今さらながら、問題意識が芽生えてきました。

５日にあげた実例と同じ会社でのことです。自動車電話がようやく使われるようになった時で、社長も自分の車につけていました。外出先から電話があったり、急用があると社員が電話したり。

外出といっても、社長業の場合、仕事ばかりとは限りません。理容室へ行ってきたのが丸わかりの香りをさせて帰ってくることもあるし、社長仲間のところでお茶しているようなこともある。

「ちょっと出かけてくるから」。ある日の午後、行先をつけず車に乗り込んで外出した社長。だいたいこういう時は大した用事でないことは社員も何となく感じていて、「いってらっしゃい」と気軽に見送る。

会社を出ていって、しばらくして、どうしても確認しないといけないことが出たわたし、いつものように自動車電話へかけると、つながらない。もうどこかに着いて車をおりた様。

会社を出た時間からして、距離がだいたい測られる。真っ先に思いついたのが親しい経営者仲間のところです。たぶん一服しにいったに違いない。とっさにそう感じました。

すぐにその会社へ電話して、当社の社長が来ているかを尋ね、「はい、少々お待ちください」と取りつがれ、電話口にでた社長、「な、なんで、わかるんだ!」。

“そりゃ、わかりますよ”と思いながらも、声には出さず、確認したいことだけを尋ねて、電話を切ったのでした。距離からすると他にも候補はありますが、出かける時の緊張感のなさからして、やはりここです。

いかがでしょう。まずは実例2、です。

2022年9月11日（日）早朝4時すぎ、西空に「十五夜」の月

10日（土）は旧8月15日、朝に旧盆の法事をして、

予報では午後から雨でしたが、意外にも晴れて、夜には十五夜が望めました。月の出まもなく十五夜はみるだけにして、翌早朝の写真を撮りました。月の上に輝くのは木星のよう。

2022年9月12日（月）早朝、木星は月のすぐ側に

2022年9月12日（月） 晴れ

9月も中旬に入ったのに、真夏の暑さ。昨夕のギラギラした陽ざしには目が眩んだ。今日も明日も気温は35度に近づきそう。かろうじて朝は少し涼しいのが救われる。

－ 場面の展開の読みと読書 －

場面展開のちょっと先を読む。事と次第によっては、手前で何かしら対策を講じ、事なきを得ることもある。そうしなかった場合との差は大きい。ミスやトラブルを防ぐこともあるだろうし、仕事がもっとスムーズにいく場合もあるでしょう。

前回、前々回の2つの例。もし同じように読める人がそう多くないとすれば、その差はどこにあるのか、ちょっと考えてみました。思い当たったのは、読書です。

特に小説や抽象度の高い本を読んでいる人は場面の展開のちょっと先を読みやすく、そうでない人は読みにくい。そうアテをつけてみましたが、どうでしょう。

街ライブラリーの活動している人がこんなことを言ったことがあります。「わたし、気づきました。読書は好きですが、読書を好きな人がもっと好き、なんだって」。ずいぶん前ですが、すごく印象に残っています。

斎藤孝さんの『読書する人だけがたどり着ける場所』という本がありますね。これを体現しているわかりやすい例はたぶん「芦田愛菜」ちゃんだろうと思います。

仕事・プライベートに関係なく、会話をしていて、何かしら話が通じない、話していて意気があがらない、そういう時がたまにあります。一人、二人にはそのワケを本にみています。

会話の中でたまたま尋ねる機会があって、本は読んでいると言いますが、種類は実用書・ハウツー、はたまた「自己啓発」系の本でした。

『読書する人だけがたどり着ける場所』の一つに、「場面の展開の読み」は入り、読書、すなわち「本業以外の本を読むこと」の意味するところは、実用書・ハウツーもの以外ということではないでしょうか。

抽象度のある程度高い本を読んで、たどり着ける場所。読書する人に開かれた境地。やはりこれは確かにある。深遠なるや読書、です。

2022年9月15日（月） 晴れ

今週はずっと真夏日にせまる気温。とにかく暑い。熱中症で生徒たちが救急搬送される学校もあった。はやく秋にひたりたい。

－ 恐怖心を超える －

仕事では当然として、仕事以外でも、〈話せる〉相手として見てもらっているようです。時々ごくごくプライベートなことを話してもらうこともあります。聞けばきくほど、知ればしるほど、一人ひとり違うし、人生もまた十人十色だと再認識させられます。

そうこうしてわたし自身もいろいろと社会勉強でき、そこに年令もかさなるわけですから、話を少し聞くだけで、その人の今おかれた状況が見えてきたりします。

特に若い人の場合は、その人が多くを語らなくても、話ぶりや話の端々から、しだいに読めてきます。そこである一人には、「怖れ、恐怖心に負けないようにしましょう」と言いました。

それが何を意味しているか、ご本人のツボに填まったかどうかはわかりません。でも、対人関係をチカラで量ってはいけない、チカラに怖れを感じてはいけない、“恐れる必要がどこにある”と、自分に言い聞かせましょうと話しました。「上下」にならず、「対等」を忘れないこと。

恐怖心は時に自分の精神を侵します。個性、アイデンティティーを放棄することさえあります。それは自分の存在が無になったに等しい。これでは仕合せにほど遠く、空虚な人生になりかねません。

アイデンティティーを育むことが生きるということだろうし、生きるということは自分を知る旅。いつの頃かそう考えています。社会生活は混沌に満ちていますが、恐怖心をうまく超えて、自分をよりよく生きたいもので

2022年9月16日（金）　仕事で知り合った旧知の方からご案内を頂戴し「新世界東映」へ

「映像発信てれれ」代表で映像作家の下之坊さんと知り合ったのは14、5年前です。『おおさかCBアワード』の大賞を受賞された頃です。

同じ時期に京都府の仕事で知り合った秋田出身の方がいて、京都移住したばかりということで、少し人の輪が広がればと下之坊さんに引き合わせたら、その後もずっとつながり、トライアングルの交流が今も続いています。

互いにふとした時に便りを出し合っています。月曜、久しぶりに下之坊さんからメールがありました。ドキュメンタリーの上映会の案内を郵送したけど、料金不足で戻ってきたとか。

「もう直前だから無理でしょうね…」と書かれていましたが、急ぎの仕事もないので、「行きますよ！」と即返信。

いやぁ、感心しました。よくぞ映像にして伝えてもらった、おかげで、こういう人がいるんだと知ることができます。映画は、長崎のある有料老人ホームをつくり運営している人をとりあげたものです。

下之坊修子監督『ちょっと変わった有料老人ホーム　ひろんた村母屋』。新世界東映で今日から始まった『ドラゴン映画祭』の上映作品です。
http://terere.jugem.jp/?eid=930/

地下鉄堺筋線恵美須町駅を地上にでると、正面に通天閣

中に入るとなかなかディープな映画館。上映後、せっかくなので、監督にサインをお願いしました。

2022年９月20日（火）　曇→晴

台風が去り、一気に気温がさがった。さきほどから陽がさしてきたので、日中は少し暑くなるかもしれない。でも先週のような真夏日にはならないはず。今日は「彼岸の入り」、さて彼岸花は咲いているかしら。

－ 重くみるようにする読書 －

日の出時間がおそくなり、日の入りは早くなり、23日は秋分、秋の夜長が進みます。食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、etc。

読書。読書好きの平均からすると、たぶんあまり数は読んでいない方です。若い頃の読書は、通っていた塾の読書会で本に親しむ習慣をつけてもらいました。

若い頃から独立するまでは主に小説、独立してからは、俗にいう〈抽象度の高い〉もの。なぜそうなったか。

経営系の本を読み始めた時、数冊読んで自分なりに気づいたのです。たいていのビジネス書はメインの理論の「焼き増し」、だから、大元の理論、原理原則をしっかりおさえればいい、と。

そして何より、自分の問題意識とその他おおぜいの人の問題意識の大きな違いを思い知り、自問を重ねることになったのが、大きい。問いの答えをもとめて本をあたれば古今東西の知がそこにある。

そうこうして自分なりに答えをみつけて現在に至っているわけですが、とはいえ、読書の意義をこれまで軽くみていたのではないかと最近感じ始めています。

先日書いたように、「場面の展開のちょっと先を読む」力をはじめ、もっと目にみえないところで、読書の蓄積が糧となって、今の自分の社会生活に思いがけない効力を発揮しているのではないか。

ある種の身体感覚として、察知する力や気配を感じる、あるいは、予知ともいえるようなものもまた…。

はたまた、同じ話を聞いても、感じる度合いは人にとって異なるものですが、その異なり度合いの量と質両面の差に、読書する、しないを因子をあててみると、なにかしら因果関係があるような…。

これらは自分なりにあたりをつけているだけですが、それでも気にはとめておこうと思います、パーソナルアシスタントの仕事柄としても。

2022年9月25日（日）晴

昨日に続き、晴天、まさに秋晴れ。朝晩はすこし肌寒い。三連休、初日は雨だったけど、まずまずのお天気になった。明日は彼岸明け、そして新月、旧暦では晩秋に入る。

－ 知ってるつもり －

23日は所用があり事務所へ出て、用事を済ませ、そのあと西長堀の市立図書館へ寄りました。探したいものがあったのです。ネットをいろいろ検索してもこちらが期待するものは見つからなかった。

西長堀にあるのは中央館です。ですから蔵書の種類も数も多い。特に3階は調査資料がかなり揃えられていて、ぶ厚い本が低い棚にたくさん並んでいます。年鑑や産業史、こんな名鑑もあるのかと感心します。いっときよく利用したものです。

今回もまずは3階へ上がりました。順にみていき、目にとまった一冊。なかなか重いそれを閲覧デスクで開いてみると、説得力があり、うなるような文章が載っていたのです、ある産業史の、「はしがき」に。「はしがき」とは最近はちょっと珍しいのではないでしょうか。

とりあえずコピー申請して、一応目的は果たしたので、ついでに人文コーナーへ寄ってみたら、初めてみる心理学図鑑があったので、とりだし、ぱらぱらとページをくっていくと、「スタンフォード監獄実験」の再現実験のことが書かれていました。

再現実験は2002年だったそうですが、それは知りませんでした。いろいろ調べてみると、「芝居」だったという話もある。心理の世界ではよく知られたことなんでしょうが、一般的にはショッキングな最初の実験結果の報道が残ったわけですね。

それでも大きな教訓にはなります、一連のことは。社会の、人間間の何らかの力学が妙な方向へ導きかねないという…。

個人としても、知っているつもりがそうじゃなかった、本当に知らないことばかりだという認識と感覚をもっておかなければ…。そのためにもまずは「知る」が大事ですが。

2022年9月28日（水） 曇り

なかなか夏服をしまえない。週末土曜は10月に入るけど、まだ夏日があるとのこと。はやく秋服を着たい。

－ つながり、バランス －

ご招待してもらって声優朗読劇というのに初めて出かけました。声優さんは今かなり人気の仕事だそうで、客席には若い女性たちもたくさん。出演者は4人、特に女性を担当した若い男性の声優さんがすごかった。女性を4役ほど、各役の声色に彩があり、発話の小気味よさに感服。

発声は全身運動といいます。演劇の人たちの練習はまず身体の動きから入るそうで、それにけっこう時間をかけるとか。劇団をやめてフリーになった俳優さんが、「あの練習がいま効いている」」と話しているのを聞いたことがあります。身体はすべてつながっている、やはり小宇宙です

『中井久夫集3 世界における索引と徴候』の「微視的群れ論」には、足の裏と顎のことが書かれていました。この箇所を読むだけでも、どの専門職にとってもためになる、汎用性のある知識が得られると思いますが、バランスの大事さを再認識します。左右の偏りなく歩く、噛む、そういったことが左右の脳をバランスよく活性する。

「体のゆがみは、その人の生き方、ものの考え方、身体イメージに影響を与えるかもしれない」。

「動体保存。いつでも動けるように保存すること。いつでもどういう対応もできるように、体のイメージができている状態。それは身体そのものではなくて、もう一つの頭の中にある体みたいなもの、そういうものの重要さというのは、いろんなところに顔を出していると思う」。

中井先生の私論&試論が展開される著述には敬服するばかりですが、とにかく、人間個人の身体も、個があつまる社会も、問題または成果は何か一つの為せるものではなく、普段は意識しない、微妙なモノ、コト、そしてヒトが、細かくつながってのことだと再認識するのです。

だから何ごともそう簡単にわかるものでないとわかっておくことが大事なんだと思いますね。

2022年9月30日（金） 晴れ

朝から秋晴れ、日曜まで続くらしい。そして来週水曜から空気が一気に変わるらしい。今日も日中は夏日の気温だが、もう戻ることはなく、秋本番になりそう。歩く頻度をふやすとしよう。

－ 異質、特殊を言う －

ときどき自分で自分を「変わってる」と言う人がいます。初めて聞いた時には、“…？”の感。こちらからはそうみえないので、曖昧な感じで会話を進めたものです。

そのうち、なんとなくわかったのは、そう言う人には二手いる。変わっていると思いたい人と、人から言われすぎて手っ取り早く自分を開示する意味で言う、相当に（？）変わっている人。

人からみて変わっていても、自分では当たり前だから認識しがたいでしょう。年を重ねて、かなりの年令にやってようやく、そうかもしれないと思う程度ではないでしょうか。

似て非なり、あるいは通じる面があるでしょうか、自分で「霊感がある」と言う人がときどきいます。初めて聞いた時は、どう捉えていいのか戸惑ったものです。何せ相手は真顔で胸を張って話すのですから。

返す言葉に間ができた隙に、相手が例をあげて真偽のほどを紹介しれくれます。ほぉーと感嘆をもらしながら、時には、それは本来人間がもっている力、感度ではないかと思う内容もあります。

でもあえてそれを言う必要もありません。どの方も本人の範疇だけのようでしたから、誰かに迷惑をかけるものでもない。だから否定も肯定もせず聞くだけです。

何か特殊な力をもつ、自分は人とちがう、自らそう言う。最近よく使われる「自己肯定感」につながるからということでしょうか。ともあれ、なぜ自分から言うのか、その点に興味はわきます。